



メック株式会社

証券コード：4971

AI
Self-driving
5G | IoT

第49期 中間
株主通信

平成29年4月1日から平成29年9月30日まで

5G
IoT
AI
Self-driving

界面創造 Creating Surface Possibilities

P1~3 TOP Interview 社長に聞く今期の業績と今後の計画

P4 MEC Business News メックの“今”をわかりやすくお伝えします

P4 Our Products 超簡単! 製品紹介

P5 見てわかる財務指標 P6 会社概要 / 株式の状況

社長に聞く今期の業績と今後の計画

技術マーケティングの強化で、当社コア技術をより幅広く展開し、新たな事業分野の開拓にも取り組んでまいります。

代表取締役社長
前田 和夫



株主の皆様には平素より格別のご高配を賜りまして厚く御礼申し上げます。
当社第49期第2四半期(平成29年4月1日から9月30日まで)の事業のご報告をお届けします。

🔍 当期のポイント

- ディスプレイ向け薬品が伸長、クルマ向け等も好調で増収増益。
- 日本を含め東アジアが順調、東南アジアは堅調。
- 新製品の市場投入を加速。コア技術の強みをより幅広い分野へ。

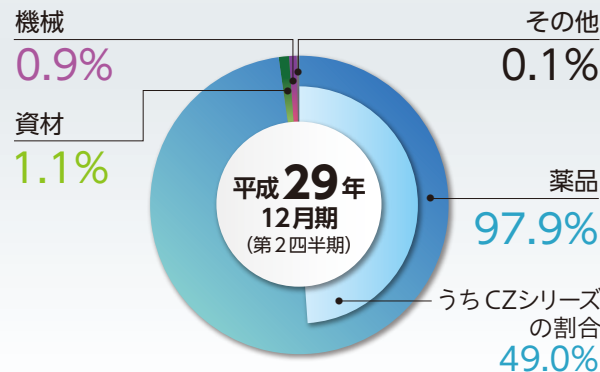
Q 当第2四半期の事業環境と業績について教えてください。
A スマートフォンやクルマ関連市場で、高密度電子基板・ディスプレイ向けが堅調。

当第2四半期連結累計期間中のエレクトロニクス業界では、パソコンやタブレットPCの出荷台数減少のスピードが鈍化し、スマートフォンは新興国での需要等を背景に堅調に推移しました。高速大容量の5Gへの切り替えが注目される移動通信分野は、高い成長が見込まれるIoT[■]関連市場とともに、高速通信

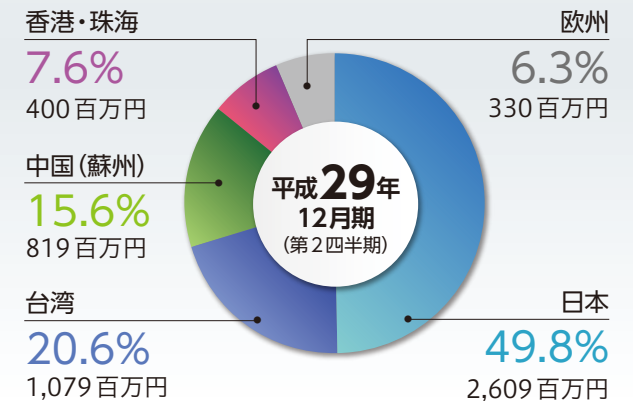
当第2四半期の実績

| | 平成29年 3月期(第2四半期) | 平成29年 12月期(第2四半期) | 増減 |
|-----------------------------------|---------------------|----------------------|--------|
| 売上高 (百万円) | 4,520 | 5,239 | 15.9%増 |
| 営業利益 (百万円) | 1,021 | 1,315 | 28.8%増 |
| 経常利益 (百万円) | 964 | 1,343 | 39.2%増 |
| 親会社株主に 帰属する四半期 純利益 (百万円) | 813 | 1,028 | 26.5%増 |
| 1株当たり 四半期純利益(円) | 41.98 | 53.67 | 27.8%増 |

売上高に占める品目別割合(%)



地域セグメント別売上高比率(%) / 売上高(百万円)



対応の電子基板の需要が大きくなっています。一方、クルマの自動運転技術の進展により、ミリ波レーダー等のセンサー類を搭載するADAS向けパッケージ基板の需要も大きくなっています。

このような環境のもと、当社グループは、スマートフォンやタブレットPC等のパッケージ基板向けに高いシェアを持つ銅表面粗化剤「CZシリーズ」の開発を加速させ、拡販を進めました。エッチング法で高密度配線パターンを形成する「EXEシリーズ」は、ディスプレイ用部品向け、スマートフォン搭載のHDI基板向けとともに順調に推移し、ディスプレイ向け「SFシリーズ」の拡販も進みました。フレキシブル基板向けに開発した粗化剤「UTシリーズ」は、基板メーカーにおいて量産が始まりました。

その結果、当期間の売上高は52億39百万円(前年同期比15.9%増)、営業利益は13億15百万円(同28.8%増)、経常利益は13億43百万円(同39.2%増)、税金等調整前四半期純利益は、

13億86百万円(同42.3%増)となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は10億28百万円(同26.5%増)となりました。

Q 製品別の販売状況はどうでしたか?
A CZとEXEは引き続き順調で、SFシリーズの販売が拡大。

当社グループの品目別売上構成のうち、「薬品」の売上高は51億27百万円(前年同期比19.6%増)となり、売上高全体に占める割合は97.9%(同3.1ポイント増)となりました。このうち銅表面粗化剤CZシリーズの売上は25億13百万円(同10.0%増)で、薬品売上高に占める割合は49.0%(4.3ポイント減)となりました。

CZシリーズは、高い信頼性によりクルマ向けのADAS基板で採用が広がりました。ディスプレイ向けに高いシェアを獲得

しているEXEシリーズは、スマートフォン搭載のHDI基板向けが順調。ディスプレイ向けSFシリーズの販売も拡大しました。マイクロエッチング剤のVボンドシリーズはHDI基板向けを中心に堅調に推移。銅箔の種類を選ばずに粗化できるUTシリーズは、基板メーカーに採用され、引き続き数社でテストを実施しています。高周波基板向けのフラットボンドはまだ少量ながら顧客での安定的な量産が継続しており、今後も拡大する方向にあります。

金属と樹脂の接合技術「アマルファ」は、一部の携帯端末の金属筐体の製造工程において使用されていますが、販売面で苦戦し、新規顧客開拓に取り組みました。

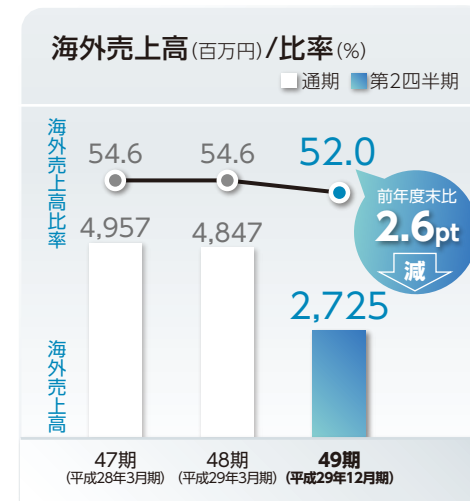
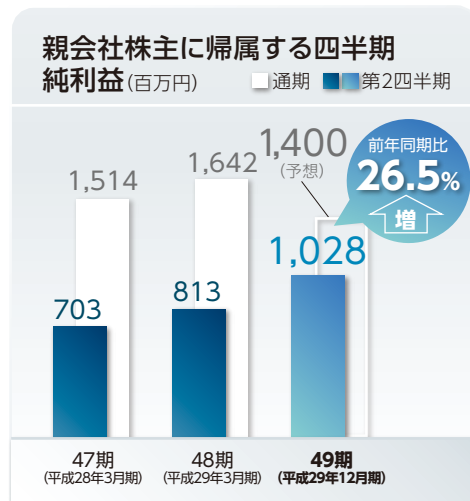
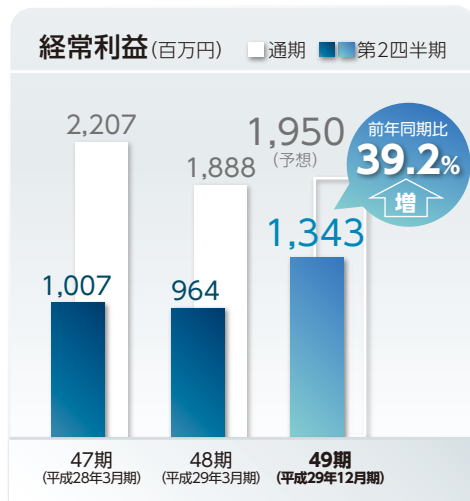
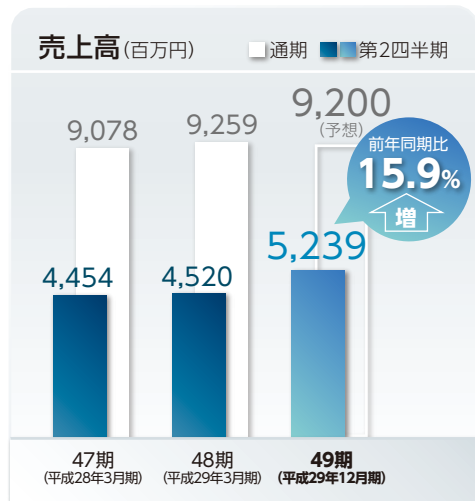
Q 地域別の販売動向はいかがでしたか?
A 日本を含め東アジアが順調、東南アジアは堅調でした。

地域別売上高(連結)における海外売上高比率は、52.0%(前年同期比1.8ポイント減)となりました。

用語集

| | |
|-------------------------------------|---|
| IoT | モノのインターネット(Internet of Things)。あらゆるモノがインターネットにつながり、人々の暮らしや産業を変える仕組み |
| HDI(High Density Interconnection)基板 | 主に、スマートフォン向けに使用される高密度な電子基板 |

| | |
|--|--|
| ADAS(Advanced Driver-Assistance Systems) | 先進運転支援システム。事故などの可能性を事前に検知して回避し、運転時の快適性向上にも貢献 |
|--|--|



地域セグメント別の売上高は、国内ではディスプレイ向け薬品を中心に伸長し、東南アジアや韓国向けでは電子基板向けが堅調に推移しました。

台湾では車載、スマートフォンやタブレットPC用パッケージ基板や高密度電子基板向け薬品が、香港、珠海では、汎用電子基板市場で売り上げが堅調に推移しました。

中国(蘇州)では、スマートフォン用HDI基板向け薬品が順調に推移し、一方、欧州では、電子基板業界全体が低迷の状況にあり、売り上げが減少しました。

Q 研究開発・事業方針について教えてください。

A **多様な樹脂との密着向上や「選択エッチング」の多用途化など、製品開発スピードをより加速させます。**

2020年の実用化を目前に5G関連の投資が着々と進んでいます。5G化で通信の速度向上や大容量化はもちろん、本格的なIoT時代の到来に伴って通信データ量が急増し、低遅延・

同時多接続も前提として求められるようになります。またクルマ市場で本格的な自動運転の普及が進むと、高速度での信号のやりとりが必須となります。それを支える製品として当社は、CZ・EXE・フラットボンド・UT各シリーズを既にラインアップしており、これらの薬品が将来、通信関連機器に浸透し、実績を積み上げた後に、高速通信処理のニーズに対応するフラットボンドの需要拡大を見込んでおり、さらなる信頼性向上とともに、より多様な樹脂との密着向上に対応する製品の開発を進めています。

当社には、密着強化・微細配線形成・表面処理等のコア技術がありますが、とくに注力している分野の一つが「選択エッチング」です。2種類以上の金属が共存するなかで特定の金属を溶解するこの技術は、電子基板以外でも適用可能であり、多方面の用途への展開を図っています。この他にも、処理が難しいチタン等の金属と樹脂との密着向上を追究するなど、当社コア技術をより幅広く展開すべく研究開発を進めています。

技術の大きな潮流変化が起こりつつある現在、当社は技術マーケティングを強化して、今後当社が進むべき方向性を決めていくとともに、新製品開発のスピードを加速させていきます。さらには開発環境が整った尼崎事業所を拠点に、新たな事業

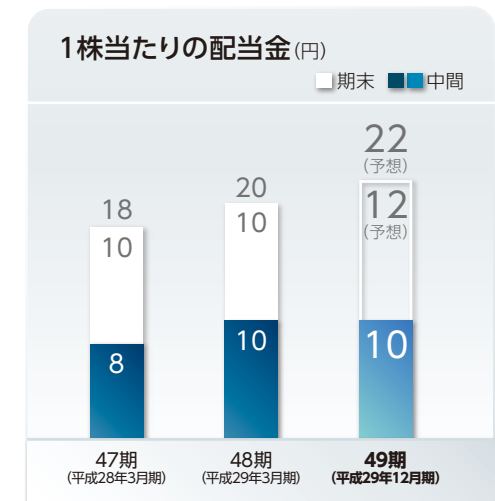
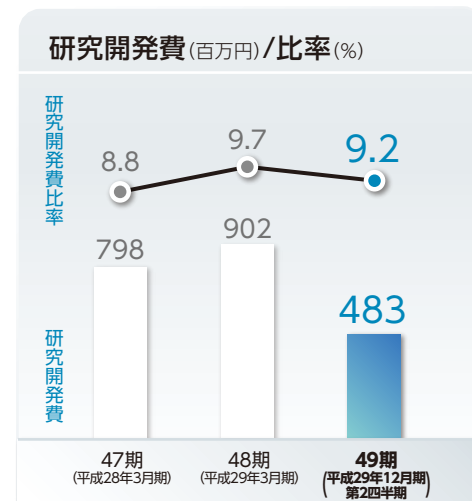
分野の開拓に取り組んでまいります。

Q 投資計画・資本政策について教えてください。

A **タイに6社目の子会社を設立。期末配当金は1株当たり2円増配予定です。**

投資計画につきましては、世界各市場の需要に即応したグローバル展開と技術の進展を見据え、今後拡大する東南アジア市場を深耕するために平成29年5月29日、タイに6社目の子会社を設立しました。操業開始は、平成30年を予定しています。

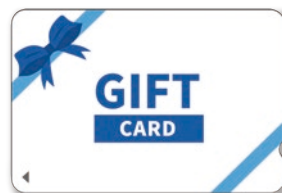
配当金につきましては、従来どおり安定配当の考えを持続しつつ、収益状況を勘案して実施することとしています。この基本方針のもと当期配当につきましては、当期の期末配当金予想を1株当たり2円増配し、12円と修正しました。これにより年間配当金は、中間配当金10円を合わせ1株当たり22円を予定しています。



株主優待制度を導入しました。

当社では株主の皆様の日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式を中長期にわたり保有していただくために、平成29年10月20日の取締役会において、株主優待制度の導入を決議しました。この制度は、毎年12月31日現在の株主名簿に記載または記録された当社株式100株(1単元)以上保有の株主様を対象に実施。平成29年12月31日現在の株主名簿に記載または記録された株主様を対象に開始します。対象となる株主様には、保有株式数の区分に応じてクオカードを贈呈します。また、贈呈時期は毎年3月末頃の発送を予定しています。

| 保有株式数 | 優待内容 |
|----------------|---------------|
| 100株以上1,000株未満 | クオカード 1,000円分 |
| 1,000株以上 | クオカード 2,000円分 |



日経IR・投資フェア2017に出展しました。

当社は、8月25、26の両日に東京ビッグサイトで開催された「日経IR・投資フェア2017」に出展しました。当フェアは、上場企業と個人投資家が直接コミュニケーションを図ることができる場として開催されています。今回は約80社の企業が出展し、会期中は約1万7,000名の個人投資家が来場されました。当社ブースでは当社の事業内容や強みなどについて随時ご説明するとともに、26日にはセミナー会場で会社説明会を行い、約100名のご参加をいただきました。当フェアへの出展は2回目で、今後とも積極的に情報発信を行ってまいります。(平成30年1月25~27日には投資家向けの展示会「資産運用EXPO (URL: <http://www.am-expo.jp/>)」に出展予定です。)



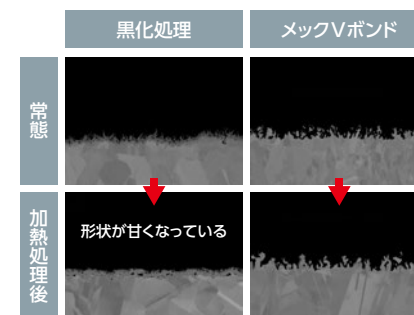
クルマ、スマートフォン市場で活躍する「メックVボンド」

従来、電子基板を多層化する際の前処理工程では、銅表面を強アルカリ性薬品により高温で処理することで微細な針状結晶を形成し、樹脂との密着性を向上させていました。これは銅表面が黒く変色するため「黒化処理」と呼ばれる工程です。しかし電子基板の高密度化が進むなかで、銅と樹脂とのさらなる密着性が求められるとともに、薬品の安全性や排水に関わる環境面の問題も重視されてきました。

この黒化処理工程の代替製品として、当社が

開発したのがマイクロエッチング剤「メックVボンド」シリーズ。黒化処理に比べて、排水の処理方法が容易であり、処理温度が低い等作業環境が改善できます。また環境負荷が少ないハロゲンフリー材との密着性にも優れています。

「メックVボンド」シリーズは、クルマ、スマートフォンのマザーボードなど、高信頼性や高密度化が進む多層電子基板の製造工程において、需要がますます拡大しています。





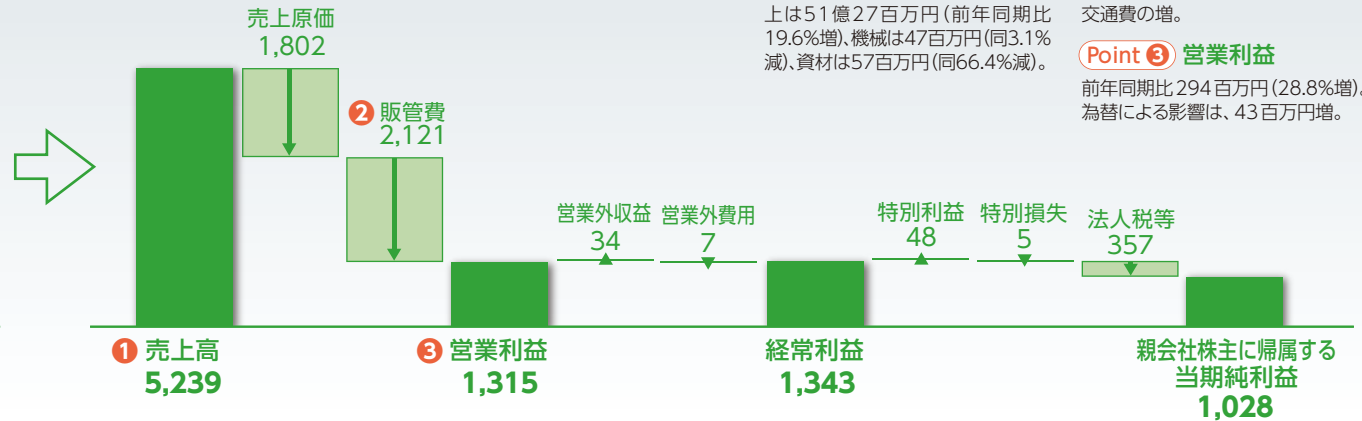
※ 決算期変更のため、第49期は平成29年4月1日から平成29年12月31日までの9ヶ月の決算となります。

連結損益計算書の概要 (百万円)

前第2四半期 (平成28年4月1日～平成28年9月30日)



当第2四半期 (平成29年4月1日～平成29年9月30日)



Point ① 売上高

前年同期比719百万円(15.9%増)。為替による影響は1百万円減。業品売上は51億27百万円(前年同期比19.6%増)、機械は47百万円(同3.1%減)、資材は57百万円(同66.4%減)。

Point ② 販管費

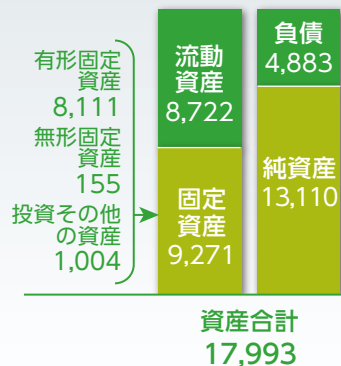
前年同期比194百万円(10.1%増)。主に、減価償却費、発送運賃、旅費交通費の増。

Point ③ 営業利益

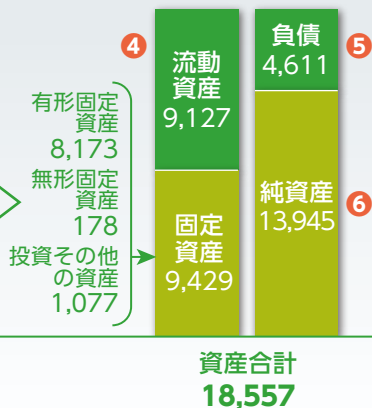
前年同期比294百万円(28.8%増)。為替による影響は、43百万円増。

連結貸借対照表の概要 (百万円)

前期末 (平成29年3月31日)



当第2四半期末 (平成29年9月30日)



Point ④ 流動資産

売上の増加に伴い受取手形及び売掛金の増加等により、5億63百万円増。

Point ⑤ 負債

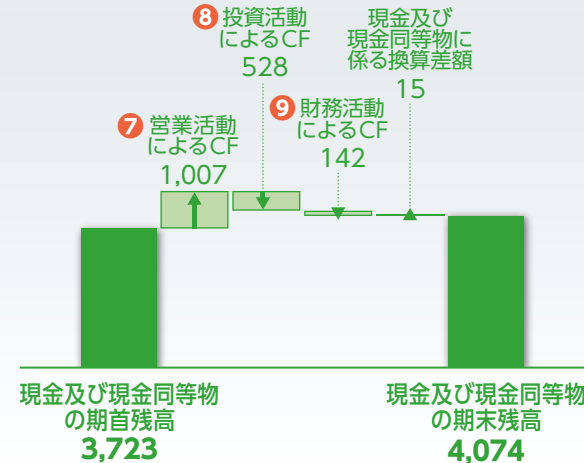
尼崎事業所建設資金の借入金返済等により2億72百万円減。

Point ⑥ 純資産

利益剰余金の増加等により、8億35百万円増。

連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (百万円)

当第2四半期末 (平成29年4月1日～平成29年9月30日)



Point ⑦ 営業活動によるCF

営業活動の結果得られた資金は10億7百万円(前年同期比2億66百万円増)となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益が13億86百万円、売上債権が4億25百万円増加したこと等によるもの。

Point ⑧ 投資活動によるCF

投資活動の結果使用した資金は5億28百万円(前年同期比10億8百万円減)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出が7億22百万円計上されたこと等によるもの。

Point ⑨ 財務活動によるCF

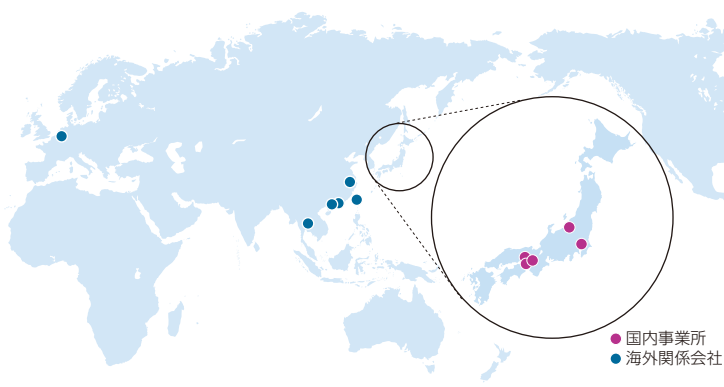
財務活動の結果使用した資金は1億42百万円(前年同期は18億6百万円の獲得)となりました。これは主に配当金の支払いが1億92百万円計上されたことによるもの。

会社概要

| | |
|----------|--------------------------------------|
| 商号 | メック株式会社 |
| 本社事務所所在地 | 兵庫県尼崎市杭瀬南新町三丁目4番1号 |
| 設立年月日 | 1969年(昭和44年)5月1日 |
| 資本金 | 594,142,400円 |
| 事業内容 | 電子基板・部品製造用薬品の製造販売 および機械装置、各種資材の販売 |

取締役および執行役員

| | |
|-------------------|--------|
| 代表取締役社長 | 前田 和夫 |
| 取締役専務執行役員 | 長井 眞 |
| 取締役常務執行役員 | 中川 登志子 |
| 取締役(社外) | 西山 豊 |
| 取締役 監査等委員会委員長(社外) | 前田 勝廣 |
| 取締役 監査等委員(社外) | 佐竹 隆幸 |
| 取締役 監査等委員(社外) | 田中 明子 |
| 常務執行役員 | 北村 伸二 |
| 執行役員 | 木田 哲郎 |
| 執行役員 | 中村 幸子 |
| 執行役員 | 武村 文夫 |



国内事業所

| |
|---|
| 本社・尼崎事業所 |
| 〒660-0822 兵庫県尼崎市杭瀬南新町三丁目4番1号 TEL. 06-6401-8160(代) FAX. 06-6401-8165 |
| 東京営業所 |
| 〒190-0003 東京都立川市栄町六丁目1番1号 立飛ビル7号館7階 TEL. 042-538-1080(代) FAX. 042-538-1090 |
| 長岡工場 |
| 〒940-2045 新潟県長岡市西陵町221番地36 TEL. 0258-47-2490(代) FAX. 0258-47-2493 |
| 西宮工場 |
| 〒663-8142 兵庫県西宮市鳴尾浜二丁目1番19号 TEL. 0798-46-8588(代) FAX. 0798-46-8688 |

海外拠点

| |
|---|
| MEC TAIWAN COMPANY LTD. |
| No.3, Ziqiang 6th Rd., Zhongli Dist., Taoyuan City 320, Taiwan (R.O.C.) TEL. +886-3-434-3549 FAX. +886-3-434-5047 |
| MEC EUROPE NV. |
| Kaleweg 24-26, B-9030 Gent, Belgium TEL. +32-9-216-7272 FAX. +32-9-216-7270 |
| MEC (HONG KONG) LTD. |
| No.8, 12/F., Tower 3 China Hong Kong City, 33 Canton Road, Tsimshatsui, Kowloon, Hong Kong TEL. +852-2690-2255 FAX. +852-2690-2262 |
| MEC FINE CHEMICAL (ZHUHAI) LTD. |
| 530 An Ji East Road, Sanzao Town, Jinwan Qu, Zhuhai City, Guang Dong 519040, China TEL. +86-756-762-2328 FAX. +86-756-762-2628 |
| MEC CHINA SPECIALTY PRODUCTS (SUZHOU) CO., LTD. |
| 31 Linjiang Road, Suzhou Industrial Park, Jiangsu 215121, China TEL. +86-512-6745-1990 FAX. +86-512-6745-1993 |
| MEC SPECIALTY CHEMICAL (THAILAND) CO., LTD. |

株主状況

| | |
|---------|-------------|
| 発行済株式総数 | 20,071,093株 |
| 株主数 | 3,010名 |

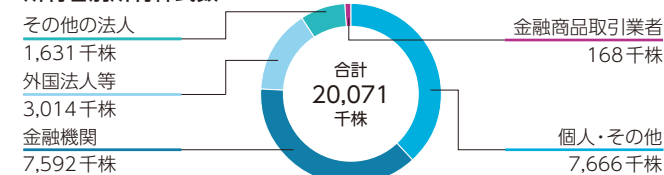
大株主の状況

| 株主名 | 当社への出資状況 | |
|---|----------|---------|
| | 所有株数(千株) | 持株比率(%) |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 3,165 | 15.77 |
| 株式会社マエダホールディングス | 1,199 | 5.97 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 1,184 | 5.90 |
| 前田 耕作 | 1,005 | 5.01 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9) | 787 | 3.92 |
| 前田 和夫 | 724 | 3.61 |
| 野村信託銀行株式会社(投信口) | 641 | 3.19 |
| メック取引先持株会 | 520 | 2.59 |
| 資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口) | 438 | 2.18 |
| J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 380578 | 357 | 1.78 |

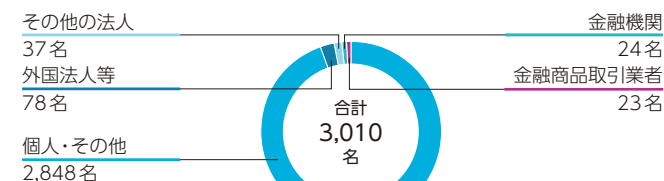
※ 当社は自己株式を763,914株保有していますが、上記大株主からは除外しています。

株式分布状況

所有者別所有株式数



所有者別株主数



※ 「個人・その他」には自己名義株式(764千株)を含んでいます。

株主メモ

| | |
|-------------------------------|--|
| 事業年度 | 毎年1月1日から12月31日まで ※ 決算期変更のため、第49期は平成29年4月1日から平成29年12月31日までの9ヶ月の決算となります。 |
| 期末配当金 受領株主確定日 | 毎年12月31日 |
| 中間配当金 受領株主確定日 | 毎年6月30日(当第49期は9月30日) |
| 定時株主総会 | 毎年3月 |
| 単元株式数 | 100株 |
| 株主名簿管理人 および特別口座 の口座管理機関 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 |
| 株主名簿管理人 事務取扱場所 | 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| 郵便物送付先 | 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 |
| ※電話照会先 | TEL. 0120-782-031 (通話料無料) |
| インターネット ホームページURL | http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html |
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所市場第一部 |
| 証券コード | 4971 |
| 公告の方法 | 電子公告により行う。 公告掲載URL http://www.mec-co.com/ir/denshi/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。) |

ニュースメール配信サービスのご案内

当社では、ホームページにニュースリリースや新しいコンテンツが掲載された際に、ご登録者の皆様にそのタイトルとURLを電子メールにてお知らせするサービス(ニュースメール配信サービス)を行っています。

ご希望の株主様には、こちらのサービスの送信先メールアドレス(携帯電話のメールアドレス不可)を、当社ホームページまたは、RIMSNET (<https://rims.tr.mufg.jp/>) から、簡単にご登録いただけます(無料)。

アンケートのお願い

当社では、株主の皆様とのよりよいコミュニケーションを目指し、今後も業績情報の開示の充実努めていきたいと考えています。

つきましては、この株主通信に対するご意見、ご感想をお聞かせいただきたくアンケートにご協力をお願いいたします。

ホームページのご紹介

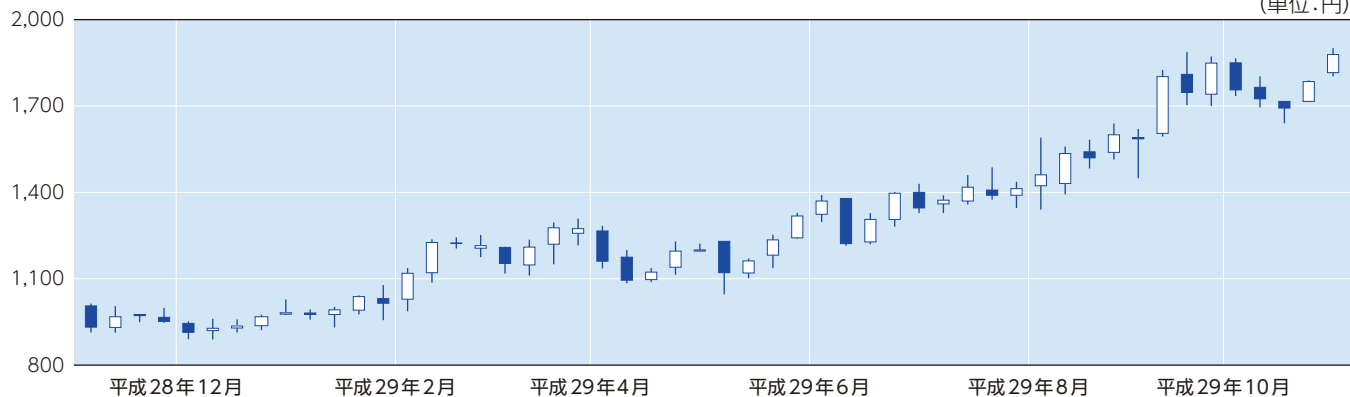
当社のホームページでは

- プレスリリース
 - 株主通信
 - コーポレート・ガバナンス報告書 他
- 各種情報を掲載しています。ぜひご覧ください。



<http://www.mec-co.com/>

株価の推移 (平成28年11月～平成29年10月)



メック株式会社

本社事務所 / 〒660-0822
兵庫県尼崎市杭瀬南新町三丁目4番1号
TEL. 06-6401-8160 FAX. 06-6401-8165

URL <http://www.mec-co.com/>

株式に関する住所変更等の お手続きについてのご照会

1. 証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。
2. 証券会社の口座をご利用でない株主様は、左記電話照会先*までご連絡ください。

